

1. 教育の責任

* 学生各自の意思に基づき、各々の目的を達成するため、専攻科目の基礎から応用に至る学びを支えることを旨とする。

2. 教育の理念

* 造形科目であることから、とりわけ主体性を重んじ、その上での創造活動における理念構築、並びに技術指導を進め、各自自立した発想で作品制作に臨めるよう、指導において心掛けている。また、表現においては、社会を俯瞰したうえで、他者との価値の共有があって初めて芸術的コミュニケーションが成立し機能するものとする。創造者の個性と社会性という、相反する要素を如何に作品に結実させ、自己の理念を発言するか、大変重く難しい課題に臨んでいる。

3. 教育の方法

実技学習において、初級段階では、テーマを提示したうえで課題を進め、そこにある問題点を積極的に考察する機会を与えるよう工夫し、各自が出会う技術的課題に向かい合うことで積極的に知識を求め、自ら課題に付随する多くの要素に触れることを期待している。現時点では社会連携による学外からの課題をグループ制作することで実現している。さらに、プレゼンテーション（進捗発表・作品発表）の機会をできる限り設け、クラス全員での話し合いを行うことで、制作理念の構築、技術に関する意見交換、また、個々の価値観に触れることを大切にしている。応用となる制作では、個人でのテーマ設定を行ったうえで、目的に応じた技術の導入、作品制作におけるテーマの掘り下げを行い、こちらもプレゼンテーション（進捗発表・作品発表）、合評での教員との密接なコミュニケーションをおこなっている。

教育実践

- ・課題提示：社会連携課題、個人制作課題
- ・学習方法：テーマ設定、ディベロップメント、計画評価、制作、進捗評価、ブラッシュアップ、作品発表（合評）
- ・双方向的な学習：プレゼンテーション（作品発表）、合評、学外での上映
- ・講義スタイル：実技

4. 教育の成果

* 作品を仕上げる事が何よりの成果となる。この経験による人としての成長は著しい。ただし、学生個人の立ち位置による差異がどうしても存在する。各自の就学姿勢に拠るところが大変大きい。ただ、創造力の価値を、身をもって確認することにより、各自の未来にとって意義ある何かを身に着けることになるであろう。その一つとして、問題解決力が実践の場で発揮されていたことが、本専攻卒業生の就職先から評価された経緯がある。

5. 改善への努力と今後の目標

* 学生たちが積極的に作品制作を行い、これを社会化させて行けるよう、より充実した指導と環境の確保を目指し、試行錯誤を続けている。

【添付資料】

学生作品例

[大手前大学 卒業制作展・学生作品 - YouTube](#)

[大手前チャンネル（大手前大学・大手前短期大学） - YouTube](#)